

植物の体の共通点と相違点(3)

【1】次の文章は被子植物の葉や根のつくりと、それらを観点とした分類について説明したものである。

()に当てはまる言葉を書くか、○で囲みなさい。

- (1) 葉に通っている筋を、()という。
- (2) アブラナのように網の目状に広がる葉脈を(網状脈・平行脈)、ツユクサのように平行に並ぶ葉脈を(網状脈・平行脈)という。
- (3) 網状脈をもつ植物の根は、太い(主根・側根・ひげ根)から細い(主根・側根・ひげ根)が出ている。
- (4) 平行脈をもつ植物は、根本から多数の細い根が出ている。このような根を(主根・側根・ひげ根)という。
- (5) 子葉が2枚である植物のなかまを(双子葉類・単子葉類)、子葉が1枚である植物のなかまを(双子葉類・単子葉類)という。
- (6) 双子葉類の葉脈は(網状脈・平行脈)であり、根は(主根と側根・ひげ根)からなっている。
- (7) 単子葉類の葉脈は(網状脈・平行脈)であり、根は(主根と側根・ひげ根)からなっている。
- (8) 双子葉類は花のつくりの特徴からさらに(被子植物と裸子植物・離弁花類と合弁花類)の二つのなかまに分類できる。
- (9) 被子植物や裸子植物のように、花を咲かせ種子をつくって子孫を殖やす植物を()植物という。

【2】次の文章は、種子をつくらない植物について説明したものである。()に当てはまる言葉を書くか、○で囲みなさい。

- (1) 種子をつくらない植物のうち、ワラビのように葉や茎と根の区別があるものを、(シダ植物・コケ植物)、ゼニゴケのように葉や茎と根の区別のないものを(シダ植物・コケ植物)という。
- (2) シダ植物とコケ植物は、花を(咲かせない・咲かせる)。また、種子を(つくる・つくらない)。
- (3) イヌワラビやワラビの葉の裏側には(胞子のう・花粉のう)という褐色の小さな袋があり、この中には()が入っている。
- (4) コケ植物の多くは、(日当たりの悪い湿った・日当たりのよい乾いた)場所で生活している。根のように見える部分は(仮根・主根)といい、からだを地面に固定するはたらきをしている。
- (5) ゼニゴケやスギゴケには、(雌株と雄株・雌花と雄花)があり、(雌株・雌花)に見られる胞子のうの中には、()が入っている。